



令和3年度 ふるさと教育推進事業

浜田市内小学校・中学校

ふるさと教育取組事例集

小学校 16校

中学校 9校



浜田市教育委員会 学校教育課

(小学校)

学校	学年	教科等	主に関わる单元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)	頁
原井小	6	総合	海洋都市・浜田の未来をえがこう	外部講師4名、海洋資源	3
雲雀丘小	5・6	総合	見つめ直そう 浜田の海	渚の交番 be	5
松原小	全校	書写	書き初め会	書写に堪能な地域の方	6
石見小	4	総合	川の環境を考えよう	島根県立しまね海洋館アクアス 今井迫川、地域ボランティア	7
美川小	4	総合	「ふるさと美川を守ろう」	美川まちづくりセンター、アクアス、美川浄水場、その他	8
周布小	5	総合	「お米博士の大発見！」	地域の方より借用の水田 地域のボランティア	10
長浜小	2	生活	大きくそだてわたしの野さい	地域の野菜作りが得意なボランティア	11
国府小	5	総合	「国府（ふるさと）の魅力」	Iターンした人、まちづくりセンター 駐在所、千畳苑、三島ファーム	12
三階小	3	総合	みんなに優しいまち	島根あさひ訓練センター	13
雲城小	5	総合	小国田んぼの米作り	おぐにまちづくりセンター てごの会	14
今福小	全校	生活 総合	もち米づくり	今福・美又・久佐まちづくりセンター、地域の方	15
波佐小	全校	生活 総合	新米を食べよう ～田植えからしめ飾りまで～	地域、学校田 米作り（炊飯等）	16
旭小	5	総合	米作り体験	今市まちづくりセンター 米作り	17
弥栄小	1・2	生活	春を見つけよう	まちづくりセンタースタッフ 地域の自然、野外散策	18
三隅小	3・4	総合	三隅の自然を体験しよう(3年) 三隅の環境について考えよう(4年)	井川川（三隅川の支流） アクアス学芸員	19
岡見小	3	総合	おかみについて知ろう～おかみ かるたについて調べよう～	岡見まちづくりセンター、まち づくり実行委員会、王山クラブ	20

※ 総合：総合的な学習の時間

(中学校)

学校	学年	教科等	主に関わる单元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)	頁
第一中	1	総合	放課後遊び隊	浜田一中校区 地域コーディネーター	21
第二中	1	総合	「みんなが住みたい街 浜田」 を考えよう！	市役所の職員	22
第三中	3	家庭	アジギョウザを作ろう	まちづくりセンター、食生活改 善推進員、地域ボランティア	23
第四中	全校	総合	しめ縄づくり交流会	美川まちづくりセンター、地域 学校協働活動推進委員、学校借 用田	24
浜田東中	1	総合	石見銀山訪問	石見銀山	25
	2	総合	車いすバスケットボール体験交 流	三光スーパーズ	26
	3	総合	職業と将来の生き方	保護者、卒業生、地元事業所 41社	27
金城中	3	総合	伝統文化の継承 和楽器の演奏	雲城まちづくりセンター 甚左衛門太鼓保存会	28
旭中	1	総合	旭を紹介するパンフレットを作 って、紹介しよう！	各地域まちづくりセンター 地元企業の方々、旭分室	29
弥栄中	2	総合	弥栄の魅力発信	弥栄の自然、特産品、や市 まちづくりセンター、弥栄支所	30
三隅中	2	総合	防災学習（地域学校協働活動）	防災士・まちづくりセンター	32

※ 総合：総合的な学習の時間

※ 浜田東中学校からは、学年ごとに報告がありましたので、そのまま掲載しました。

学校名	浜田市立原井小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
6	総合的な学習の時間	海洋都市・浜田の未来をえがこう	外部講師4名、海洋資源
ねらい		ふるさと浜田の海の自然や資源を活用した取組について調べる活動を通して、ふるさと浜田の海を生かした産業に従事する人々の思いや願いに気づき、未来の浜田市について考えようとする。	
<p>1 取組の概要</p> <p>本校の近くには浜田市の漁業を支える浜田港があり、水産業に携わっている家庭の児童も多い。</p> <p>5年生の昨年度は「浜田市の魅力＝海・水産業」であることを、浜田市の水産業を支える方々と出会いや情報収集などを手がかりにして、自分なりの根拠をもって実感することができた。今年度はその発展の学習となる。</p> <p>今回は「20年後の浜田市も、水産業の町であるのか？」という問いかけからスタートした。YESは28人、NOは8人、分からないと答えたのは3人であった。実際にふるさと浜田で水産業や海の仕事に携わる方との出会いを通して、「海洋都市・浜田の未来」について考え、海の自然や資源を活用した取組を提案することとした。</p> <div data-bbox="968 600 1441 907" style="float: right; text-align: center;">  </div> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>○課題の発見(気付く)</p> <p>魚の水揚げが減少していることや、漁師さんの人数・漁業会社が減っていること、水産業に従事する人が減っていることや魚を食べる人が少なくなっていることなど、これまでの学習や、経験などから得た知識などをもとに、浜田市の現状や課題を共有した。</p> <p>また「浜田市役所水産振興課」や「株式会社シーライフ」「渚の交番be」から外部講師を招き、それぞれの専門分野の視点から、魅力や課題、現状などを語っていただいた。また、学校栄養士の山崎先生からも、魚料理や栄養の面から助言をもらった。</p> <p>○課題の設定(気付く)</p> <p>国語科の「町の未来をえがこう」の単元で教材文「町の幸福論」に記された、「バックキャストイング」という考え方も参考にグループ活動を進めた。自分たちで発見した課題や各分野における話をもとに、まずは浜田市の20年後の未来をえがき、現在を振り返って今やるべきことを探っていくこととした。「やっぱり水産業の町である」と主張するグループや、「海のレジャーを楽しむ町である」と未来を予想するグループなど、同じ思いやイメージをもつ仲間が集まり、浜田市の課題を解決する提案を話し合った。</p> <p>○課題の解決(考える)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間発表会に向けて <p>自分たちの主張を伝えるために、「未来の町の具体的なイメージ」と「未来の町を実現させるための取組」「取組を行うための具体的な提案」を説明できるよう、準備を進めた。また、「いつ・どこで・だれが・なにを・どのように・どうするのか」といった内容や数値を示すことで、聞き手に納得してもらおうようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間発表 <p>お互いの提案について、良い点やアドバイスを伝え合った。それに加え、海を生かした事業を新たに起こした「渚の交番be」の田畑さんや「シーライフ」の河上さんを再度招き、提案発表に参加してもらい助言をもらった。</p>			

○新たな課題の発見(創り出す)

- ・学習発表会でのプレゼンテーションに向けて

中間発表を振り返り、「誰にとってよさがある活動なのか」を明確にすることや「楽しそうだから自分も参加したい」と思えるような活動を提案することを意識して、発表内容を組み立てるようにした。

- ・学習発表会

自分たちの主張や提案が正しく伝わるよう工夫した、発表原稿やスライド資料をもとにして、聞き手に語りかけた。

【提案1】…海のレジャーの町をめざして

課題は、魚を食べる人が減っていることと、レジャーをする人が少ないこと。それを受けて、「釣り大会」を企画したい。釣った魚を自分たちでさばいて食べてもらうことで、魚を食べる人を増やしたり、浜田の魚のおいしさを知ってもらったりできると考える。

【提案2】…海のレジャーの町をめざして

漁師の1日を体験できるイベントを行うことで、浜田の水産業に関心をもってもらう。浜田の漁は夜に行われることが多いので、夜にイカ釣り体験をして、朝、港に水揚げされたものを網から外したり選別したりしてもらう。この活動で、水産業に関する仕事に就く人が増える効果もあると考える。

(学力育成の視点から)

国語科の単元「町の未来をえがこう」で学んだ「バックキャスティング」という方法に倣って自分たちの考えをまとめることで、論理的に事柄を組み立てたり根拠をもって相手に伝えたりするようにした。

調べた資料や地域講師から聞いた話から自分たちの発表に必要な情報を吟味して、相手を納得させるプレゼンテーションを行うようにした。



3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身についたか等)

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

昨年度の学習において、児童は、「本当に浜田市は水産業が有名な町である」ことを実感していたため、未来の浜田市についても水産業の町であると考えている児童が多かった。しかし、地域講師の方々から、浜田市の海の自然や資源を活用した取組について伺うことで、水産業以外の産業に目を向けるきっかけになった。学習発表会では、児童が描いた「20年後の浜田市の姿」や現在、浜田市の水産業が抱えている課題の解決方法について発表したことで、改めてふるさと浜田の魅力に気付き、ふるさとのために何ができるのかを考えることができた。

(学力育成の視点から)

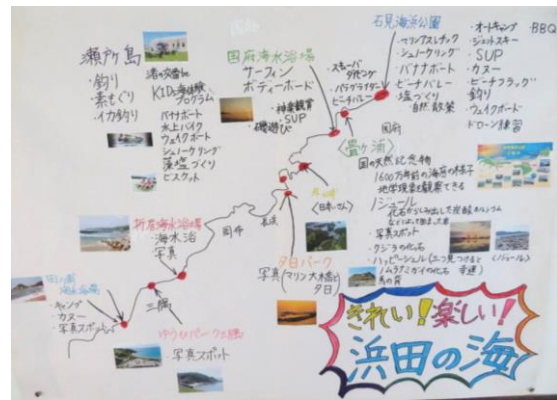
自分たちの考えを論理立てて話すことが苦手という児童の実態があったが、バックキャスティング法に倣い、自分たちの課題を追究する過程を踏むことで、広い視野を持って考える経験ができたように思う。また、自分たちの意見や提案を、根拠をもとにして自信をもって伝えることもできた。

中間発表でのアドバイスを受け、発表内容を再度編集することで、具体化した事柄を入れて話すことができるようになった。そうすることで、自分たちの主張がより明確に伝わることを実感することができた。その後の学習などにも生かす児童が増えた。

4 課題や今後の展望


本校では、来年度以降も継続して「海洋教育」を行っていきたいと考える。今年度は、4～6年生が「海」や「水産業」に関わる学びを、総合的な学習の時間や社会科、理科などの学習で行った。学年ごとに系統的・段階的に学びを深めていく内容を今後も実施するに当たっては、各学年の年間指導計画や各学年のねらい等を明確にしておく必要がある。学年が上がるにつれ、課題をより自分ごととして捉えたりこれまでの学びを生かした考えや提案等ができたりするよう、体系的な学習計画を組んで全体で共有しておく必要がある。

学校名	浜田市立雲雀丘小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
5・6	総合的な学習の時間	見つけ直そう 浜田の海	渚の交番 be
ねらい		浜田の海でできることを調べたり、実際に体験したりすることを通して、浜田の海に対する愛着や大切にしていこうという気持ちを育てる。	
1 取組の概要			
<p>自分たちの身近にある海について見つけ直す活動を行った。始めに、自分たちの知っている浜田の海を利用した遊びや活動について発表していった。そこから、浜田の海でできることやおすすめスポットを、インターネット等を活用して調べ、「きれい楽しい浜田の海MAP」としてまとめた。</p>			
<p>また、渚の交番 be に協力していただき、魚釣り体験、藻塩づくり体験を行った。マップ作りや体験活動を通して、浜田の海を守っていききたいという気持ちをもったことから、そのためにどんなことができるか考え、SDGs の取り組みについて調べた。</p>			
<p>学習して気づいたことや分かったことをまとめ、学習成果発表として保護者や全校に発表した。</p>			
2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。			
<p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p>			
<p>子どもたちの身近にある海であるが、学習のはじめに、海に対する経験やイメージを尋ねたところ、実際に海と関わることがそれほど多くなく、海に対するイメージも「こわい」「苦手」という児童が多く見られた。そこで、海の楽しさやよさが子どもたちに伝わるよう、体験活動を取り入れることでマイナスのイメージを少しでもプラスにイメージしたいと考えた。</p>			
<p>(学力育成の視点から)</p>			
<p>浜田の海について調べる際、自分たちで観点を絞り、浜田の海のおすすめスポットやそこでできる海を使った活動について調べた。インターネットを活用し情報を収集することで情報活用能力の育成を目指した。</p>			
3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等)			
<p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p>			
<p>調べ活動や体験活動を通して、ふるさとの海のよさやすばらしさに気づくことができ、「もっと浜田の海に親しんでみたい」「きれいな海をこれからも守っていききたい」という気持ちを持つことにつながった。</p>			
<p>(学力育成の視点から)</p>			
<p>調べたことを、小グループでマップにまとめ、さらに全体で一つのマップにまとめた。集めた情報を整理・分析し、自分たちのマップにどうやって分かりやすく簡潔にまとめるか考えたことで情報活用能力が身に付いた。</p>			
4 課題や今後の展望			
<p>単元のスタートが2学期からだだったので、実際に児童たちが体験できる活動が狭まってしまった。もっと早い時期から取り組むことで、夏の時期にできる体験にも取り組むことができ、子どもたちに多様な体験をさせることができたと思う。</p>			



学校名	浜田市立松原小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
全校	書写	書き初め会	書写に堪能な地域の方
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・書写に堪能な地域の方に来ていただき、実際に書き方を指導していただくことで、児童が目標をもち、意欲的に取り組むことができる。 ・新しい年を迎え、新たな気持ちで書初めに取り組むことにより、自分の力を十分に発揮して作品作りをしようとする態度を育てると共に、今年一年頑張るという意欲をもつことができる。 ・お互いの作品のよさに関心をもって鑑賞しようという態度を育てる。 	
<p>1 取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書写に堪能な地域の方が、実際に書いてくださる様子を見る。 ・字を書くときのポイントを教えていただく。 ・児童が書いた字を評価してもらったり、アドバイスをもらったりし、次回に生かしていく。 <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>書写に堪能な方から直接お話を聞くことで、書写をより身近に感じ、自ら学びたい気持ちを付けたため。</p> <p>地域の方に、子どもの様子や学校の様子を知っていただくため。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>児童が自らの課題をもち、目標をもって字に向き合う力を身につけさせたいと思い、来ていただいた。</p> <p>3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等) (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>自分たちの目の前で、書いていただくことで、書写をより身近に感じ、積極的に学ぼうとする力が身に付いた。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>書写に堪能な方から教えていただいたポイントを意識し、また同時に自らの課題に気をつけて前向きに取り組もうとする力が身に付いた。</p> <p>4 課題や今後の展望</p> <p>書写に堪能な方に今後も継続的に来ていただけるよう、打ち合わせ等をしていくことが課題となってくる。今後は、書き初め会という行事だけではなく、日々の学習の中で機会を見つけ、指導していただきたいと思う。</p>			



学校名	浜田市立石見小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
4	総合的な学習 の時間	川の環境を考えよう	島根県立しまね海洋館アクアス 今井迫川、地域ボランティア
ねらい		今井迫川の生き物探しを通して、生き物からわかる川の環境を学び、浜田地区の環境に関心をもつことができる。	
<p>1 取組の概要</p> <p>島根県立しまね海洋館アクアスの方の指導のもと、今井迫川にいる生き物を採取し、どんな生き物がいるか資料を使って調べた。(採取した生き物は川にリリース。)</p> <p>2 授業(活動)づくりのポイント(工夫)</p> <p>(1) 事前学習として、川にすんでいる生き物の種類によって川のきれいさが分かることを学ぶ学習をおこなった。そのことにより、児童が「浜田市に流れている川は、一体どうなのだろう?」という疑問をもち、それを解決するという課題意識をもって調査することができるようにした。</p> <p>(2) ワークシートを使って、班ごとに川の様子を観察した。川の透明度や、植物の様子、においや聞こえる音など、様々な観点から川を観察するようにした。</p> <p>(3) つかまえた生き物を水槽に移して観察し、資料をもとに、どんな生き物がいるかを調べた。</p> <p>3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身についたか等)</p> <p>(1) 最初は中々生き物を捕まえることができなかったが、コツをつかむとどんどんつかまえることができた。実際に生き物に触れたり、五感を通して川の環境を感じたりする体験は、児童にとって川の環境を学ぶ上で重要なものとなった。</p> <p>(2) 活動を通して、今井迫川には、カワニナやコオニヤンマの幼虫、カワゲラといった水生昆虫から、カジカやモクズガニ、ゴリやカワムツ、ハヤなど、たくさんの種類の魚もいることが分かった。活動を通して、地域の環境により関心をもったり、愛着をもったりする機会となった。</p> <p>4 課題</p> <p>地域のよさを知り、自分にできる環境活動を考えることを今後も継続していくことで、浜田地区の環境について自ら課題を見つけるなど、関心をもつようにしていきたい。</p>			
			

学校名	浜田市立美川小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
4	総合的な 学習の時間	「ふるさと美川を守ろう」	美川まちづくりセンター・地域の方々、アクアスの職員の方々 美川浄水場、地域の自然 野鳥の観察、サケの放流、水質調査
ねらい		地域の自然と自分達のくらしとの関わりについて調べることを通して、ふるさとへの愛着や誇りをもてるようにする。	

1 取組の概要

〈1学期〉

- ・周布川や水辺の生き物について図書資料やインターネットで調べる。
- ・サケの放流を行う。
- ・周布川の支流内田川の水質調査を行う。
- ・美川浄水場を見学し、美川地区の「水」について知る。

〈2学期〉

- ・野鳥の観察をし、美川地区の川と自然と鳥の共存について知る。
- ・ふるさと美川を守るため（環境保全）に自分達にできることを考える。

〈3学期〉

- ・ふるさと美川を守るために自分達にできることを考え、実践する。
- ・学習して分かったことや感じたことをまとめる。

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

3年生では、「美川っ子探検隊」というテーマで、ふるさと美川の良いところ、自慢できるところを探求する学習を行った。それを踏まえて、4年生では、みんなの大切なふるさと美川を守っていくために何ができるのか、環境保全を主体として学習を展開した。コロナ禍で活動内容や範囲に制限が加わり、予定していた活動ができないことも多かったが、可能な範囲で周布川に直接ふれたり、川と関わりの深い人と交流したりしながら活動を進めたいと考え、様々な活動を計画し、実施した。

地域講師としては、アクアス職員の山口さん、美川浄水場の松本さん、水鳥公園を作って野鳥に餌付けをされている岡本さんなど、様々な方の話を聞き、体験や見学をした。



美川浄水場見学の様子



サケの放流の様子

(学力育成の視点から)

最終的には、「ふるさと美川を守るため」に何ができるか、他者と協働して課題の解決に向けて探求する力を育てたいと考えた。ふるさと美川を守るために何ができるか、仲間と話し合い、それを実行に移すために、1、2学期にできるだけ多くの活動や見学を実施した。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

児童の実態として、本や辞典、資料で調べることにとても意欲的な児童が多い。この学習を行ったことで、自分で調べて分かったり課題解決したりすることができ、さらに調べようとする意欲が高まった。また、野鳥については、タブレットを用いて調べ学習も行った。写真や音声があることで鳥のことが良く分かり、より学習に関心がもてた。

毎日見ている周布川について学習を進めたことで、四季の様々な景色や動植物の様子、地域の行事などについての関心が一層高まった。水鳥公園は学習後に自主的に観察に行く児童もいた。

水生生物の調査（支流の内田川で実施）、社会科の美川浄水場見学等によって、ふるさとの川の水質が誇れるものであることが分かり、その川の環境をずっと大切にしていこうとする思いが高まった。「きれいな内田川をずっと守っていききたい。」と感想に書いている児童が多くいた。



野鳥の観察の様子



水質調査の様子

(学力育成の視点から)

ふるさと美川を守るために、クラスで話し合いを重ね、ごみ拾いを行うことを決めた。花を植える、木を育てる、ポスターや看板を作る、美川のキャラクターを作るなど様々な意見が出たが、川の学習を行ったときに、ごみが落ちているのが気になったことや地域の人や自分たちが気持ちよく生活したいという気持ちから、ごみ拾いに決定した。ごみ拾いは、地域の人もよく通る、「本郷橋」、「周布川の土手、河川敷」、「学校周辺」で実施した。実施後は、振り返りをして、ごみ拾いで気づきや振り返りなどをパワーポイントにまとめた。

4 課題や今後の展望

新型コロナウイルス感染症拡大のため、活動内容や範囲に制限が加わり、予定していた活動ができないことも多かった。特に、秋から冬にかけて地域の方々と直接会う機会が少なくなった。今後は、オンラインで交流ができないかなど、活動方法を考えていく必要がある。また、児童が主体的に地域と関わっていくために、今後も地域課題を解決する探求的な学習の進め方を検討していく必要がある。担任が変わっても前年と同じように地域の方々と関わっていけるよう、校内において地域人材のデータベース化を進めている。それを活用して今後もより一層地域と連携して活動を進めていきたい。

学校名	浜田市立周布小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
5	総合的な学習の時間	「お米博士の大発見！」	地域の方より借用の水田 地域のボランティア 田植え・稲刈り・炊飯活動
ねらい		米づくりの体験や地域の方々とかかわりを通して、ふるさとへの愛着を深めたり、農業に対する自身の考えを広げたりすることができる。	
1 取組の概要			
<p>○地域の方から田んぼをお借りし、田植え（5月）、稲刈り（9月）を実施する。</p> <p>○家庭科の学習にて、収穫したお米を使って炊飯活動を行う。</p> <p>○お世話になった方に感謝の気持ちを伝える会を計画する。</p> <p>・米作り体験をきっかけとし、追求してきた米作りに関する内容を地域の方に発表する。</p>			
2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。			
<p>（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）</p> <p>体験活動をスタートする前に、地域で米づくりに従事している方の話を聞く活動を設定することで、ふるさとの米作りに対する関心を高めることができたようにした。</p>			
<p>（学力育成の視点から）</p> <p>食料の大切さや生産者の苦労を学び、今後の生活や学習に生かそうとする思いを育むために、田植えや稲刈りという生産の過程に携わる活動を設定した。</p> <p>児童の学ぶ意欲を高めたり、農業（米づくり）に対する理解を深めたりするために、体験活動と各教科のつながりを意識して授業を計画した。（主に社会科、総合的な学習の時間）</p>			
3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）			
<p>（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）</p> <p>体験活動中だけでなく、田んぼの管理面でもお世話になったということで、振り返りや感謝の手紙には、多くの児童が学んだことだけでなく、地域の方への感謝の言葉を綴っていた。</p>			
<p>（学力育成の視点から）</p> <p>田植えや稲刈り後には、米づくりが想像以上に大変だったことを多くの児童が振り返りに書いており、生産者の苦労や食材の大切さについての理解を深めていた。体験後に、調べたいテーマが明確になる児童も多く、実りある時間になったことが分かった。</p>			
4 課題や今後の展望			
<p>今年度の取り組みをもとに、地域の教育資源である（ひと・もの・こと）をもっと効果的に活用する方法を考え、よりよい児童の学びにつながるようにしていく必要がある。</p>			



学校名	浜田市立長浜小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2	生活科	大きくそだてわたしの野さい	地域の野菜作りが得意なボランティア
ねらい		身近な植物の栽培に関心をもち、世話の仕方を自分で調べたり、人に聞いたりしながら、大切に世話をする中で、それらに生命があることや成長していることなどに気付くとともに、植物に愛着をもち、継続的に育てることができる。	
<p>1 取組の概要</p> <p>児童が育てたい夏野菜を決め、学校の畑で育てた。</p> <p>その際、苗の植え方や種の蒔き方、育て方、世話の仕方、収穫の仕方などを地域の野菜作りが得意なボランティアに教えてもらった。</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>自分たちが住む地域には、自分たちが知らないことを知っている人がいることに気付き、野菜の育て方について教えてもらった感謝の気持ちをもつこと。 (学力育成の視点から)</p> <p>野菜の世話をする中で、それらに生命があることや成長していることなどに気付くとともに、継続的に育てること。</p> <p>3 児童・生徒に見られた変容 (どのような力が身に付いたか等) (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>ボランティアの方へ進んで質問したり、意欲的に感謝の気持ちを伝える手紙を書いたりした。 (学力育成の視点から)</p> <p>継続的に野菜の世話を頑張った。</p> <p>4 課題や今後の展望</p> <p>長浜まちづくりセンターとの連携が十分にできた。来年度に向けて、振り返りをすることができたため、来年度は今年度の反省を生かして、子どもたちにとって、ボランティアにとって、より良い活動となると考えられる。</p>			



学校名	浜田市立国府小学校																		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)																
5	総合的な学習	「国府（ふるさと）の魅力」	Iターンした人、まちづくりセンター 駐在所、千畳苑、三島ファーム																
ねらい		見つけたふるさと（国府・浜田）の魅力を伝えたり、課題を解決したりするために、自分たちでできることを考え、発信する。																	
1 取組の概要 <div style="float: right; text-align: right;">  </div> <p>(1) 「20年後浜田に住んでいたい？」の問いかけから始まった学習</p> <p>(2) 校区にIターンで移住してこられた方々のお話を聞き、質問する。</p> <p>(3) 「ふるさとの魅力を守り、ひろめる」プロジェクト学習</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>きれいな海や川を守る</td> <td>どうやって汚れるのか、どこが汚れるのか調査する。</td> </tr> <tr> <td>きれいなまちにしたい</td> <td>まちづくりセンターに来た人にアンケートをする。</td> </tr> <tr> <td>仕事（農業）を盛んにする</td> <td>お店で地元の野菜がどれだけ売られているか調査する。</td> </tr> <tr> <td>犯罪や事故のないまち</td> <td>駐在所に行き、どこで事故が起きやすいか聞き取りをする。</td> </tr> <tr> <td>人が集まるまち</td> <td>千畳苑に来る人はどこから来て、どこへ行く人か調査する。</td> </tr> <tr> <td>笑顔あふれるまち</td> <td>幟を作り、町内であいさつ運動をする。</td> </tr> <tr> <td>みどりがたくさん</td> <td>植物（花）を育て、まちづくりセンターに飾ってもらう。</td> </tr> <tr> <td>自然に親しむ</td> <td>国府のおすすめスポットを調べ、ポスターを作る。</td> </tr> </table> <p>(4) 学習成果発表会で調査結果や提案を発表（コロナ禍で中止）</p> <div style="float: right; text-align: right;">  </div> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 （ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Iターンで移住してきた方との出会い、ふるさとの魅力を再発見するきっかけとする。 <p>（学力育成の視点から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校区内の施設や地域の人々の協力を得て、主体的に取材や調査ができるようにする。 <div style="float: right; text-align: right;">  </div> <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等） （ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Iターンをした人との出会いを通して、「ふるさとの魅力や課題を見つけていこう」と学習のめあてや課題づくりが自分たちの手でできるようになった。 <p>（学力育成の視点から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決のために、何をしたらよいか、どうすればそれができるか、必要なことは何か、など試行錯誤を繰り返しながら、協力して探究的な学習を進めていった。（見通す力・協働する力） <div style="float: right; text-align: right;">  </div> <p>4 課題</p> <p>子どもが自分たちの発想を生かして調査をしたり、実践をしたりする時、その多くが校外の学習となる。校外学習をサポートする人手が足りない。まちづくりセンターのボランティアの協力も得たが、タイムリーに来ていただくことは難しかった。</p> <p>今年度は、成果発表の機会がなかったが、表現・発信が外部への呼びかけだけでなく、自分自身の成長や行動の変容を自覚するようなまとめの学習過程を取り入れることが必要である。</p>				きれいな海や川を守る	どうやって汚れるのか、どこが汚れるのか調査する。	きれいなまちにしたい	まちづくりセンターに来た人にアンケートをする。	仕事（農業）を盛んにする	お店で地元の野菜がどれだけ売られているか調査する。	犯罪や事故のないまち	駐在所に行き、どこで事故が起きやすいか聞き取りをする。	人が集まるまち	千畳苑に来る人はどこから来て、どこへ行く人か調査する。	笑顔あふれるまち	幟を作り、町内であいさつ運動をする。	みどりがたくさん	植物（花）を育て、まちづくりセンターに飾ってもらう。	自然に親しむ	国府のおすすめスポットを調べ、ポスターを作る。
きれいな海や川を守る	どうやって汚れるのか、どこが汚れるのか調査する。																		
きれいなまちにしたい	まちづくりセンターに来た人にアンケートをする。																		
仕事（農業）を盛んにする	お店で地元の野菜がどれだけ売られているか調査する。																		
犯罪や事故のないまち	駐在所に行き、どこで事故が起きやすいか聞き取りをする。																		
人が集まるまち	千畳苑に来る人はどこから来て、どこへ行く人か調査する。																		
笑顔あふれるまち	幟を作り、町内であいさつ運動をする。																		
みどりがたくさん	植物（花）を育て、まちづくりセンターに飾ってもらう。																		
自然に親しむ	国府のおすすめスポットを調べ、ポスターを作る。																		

学校名	浜田市立三階小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	総合	みんなに優しいまち	島根あさひ訓練センター
ねらい		視覚障がいや盲導犬の訓練について調べたり体験学習を行ったりすることで、福祉に関する理解を深めるとともに、自分にできることを考え、実際の生活に活用できる力をつける。	
1 取組の概要			
<p>ユニバーサルデザインやバリアフリー、パラリンピックについて調べることを通して、生活の中の様々な場面で福祉にふれていることを知る。</p> <p>アイマスク体験を通して、介助者と被介助者の両方の気持ちについて考える。</p> <p>島根あさひ訓練センターの方を講師に、視覚障がいや盲導犬の訓練について説明を聞く。</p> <p>学習したことをもとに、福祉について分かったことや、これから自分たちがどのように福祉に関わっていきたいかについてまとめる。</p>			
2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。			
<p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p>			
<p>社会科の学習の中で、浜田市旭自治区には島根あさひ訓練センターがあることを知らせ、ホームページやパンフレットを活用して、施設について調べ学習を行った。</p>			
			
<p>(学力育成の視点から) 課題解決力・実行力</p>			
<p>地域にある島根あさひ訓練センターの協力を得て、体験的な活動を取り入れたり、視覚障がい者や盲導犬の訓練について具体的に学んだりする場を設定した。</p>			
3 児童・生徒に見られた変容 (どのような力が身に付いたか等)			
<p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p>			
<p>コロナの影響で、実際に島根あさひ訓練センターに行つての学習はできなかった。しかし、リモート学習を行ったことで、施設や施設の方、盲導犬についてより身近な存在となり、地域には素晴らしい施設があり、はたらきがあることを実感することができた。</p>			
<p>(学力育成の視点から) 課題解決力・実行力</p>			
<p>学習する前のアンケートでは、子ども達にとって「福祉」とは自分の生活と少し遠いところにあるように思っていたようであるが、学習を通してとても身近なものであるとともに、自分の生活にも大きく関わっていることに気付いた。そして、自分の生活をより豊かにしていくため、そして誰もが暮らしやすい浜田市を実現するためにできることを考えたいという思いをもつことができた。</p>			
4 課題や今後の展望			
<ul style="list-style-type: none"> ・地域にある総合福祉センターとの連携。 ・「ボッチャ」体験。 ・コロナ禍の中での「ひと・もの・こと」への出会いの場の工夫。 			
			

学校名	浜田市立雲城小学校			
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)	
5	総合的な学習の時間	小国田んぼの米作り	おぐにまちづくりセンター てごの会	
ねらい		金城の良さや、そこに住む人々のふるさとに対する思いにふれ、自分達に何ができるのかを考える。		
1 取組の概要				
<p>金城町小国地域はおいしいお米が収穫できる地域として知られている。また、学校の統合により旧小国小学校区の児童は雲城小学校に通学をしている。学校がなくなった地域の方々が、子どもたちとの活動を楽しみにしておられること、小国で田植えや稲刈りなどの体験を地域の方々と一緒にすることで地域の方の思いを知ることができること。さらに、小国のお米がおいしい秘密をさぐることで「ふるさとの良さ」を実感できると考えている。また、ふるさとの宝として、小国のお米の良さをPRしたり、活かそうとしたりする活動を通して、地域貢献の意識を高めることにもつながると考え、本活動を設定している。子ども達にもその思いを伝え、金城町の自然の豊かさや人々の心の温かさ、自分達に何ができるかを学んでいく学習を年間通して実施した。</p>				
2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。				
<p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>金城町の自然の豊かさや人々の心の温かさ、故郷に対する人々の愛情を感じることで、自分達に何ができるかを学ぶために活用した。</p>				
<p>(学力育成の視点から)</p> <p>「米」という身近な題材を取り上げることで「調べてみたい」「もっと知りたい」という、主体的に学習に取り組む意欲を高めた。また、調べ学習の際には、一人一台端末を活用することで、体験活動を通しての気づきや疑問を個の興味・関心に応じて調べたり、全体にプレゼンテーションしたりすることができた。</p>				
3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）				
<p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>地域の自慢としてお米を大切に育てておられる地域の方の思いを感じ、ふるさとのよさとして自分の言葉や表現方法でPRをすることができた。また、小国地域でとれたお米のよさや、お世話になった地域の方に対する感謝の気持ちを学習発表会の発表やお米の販売の場で保護者や教職員に伝えることができた。</p>				
<p>(学力育成の視点から)</p> <p>社会科との合科的な学習により、課題発見力や情報収集・活用能力、プレゼンテーションによる表現力、体験活動や話し合いによるコミュニケーション能力が身についた。</p>				
4 課題や今後の展望				
<p>コロナ禍という状況で難しい点もあるが、年間計画に基づいた継続的な活動を行っていく。</p>				

学校名	浜田市立今福小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
全校	生活 総合	もち米づくり	今福・美又・久佐まちづくりセンター、地域の方
ねらい		田植えからもちつき会までの活動を通して、季節の移り変わりを感じたり、地域の自然や人に親しみをもち、そのよさに気づいたり、進んで関わろうとしたりする。	
<p>1 取組の概要</p> <p>(1) もち米づくりの作業（田植え・稲刈り・脱穀）を行う。</p> <p>(2) 稲の生長を観察する。</p> <p>(3) 地域の方と一緒にもち米づくりの活動を行う中で、作業の仕方や道具の使い方などを教えてもらう。</p> <p>(4) 収穫と卒業を祝い、地域の方と一緒にもちつきをして会食をする中で、これまでお世話になった地域の方との親睦を深め、感謝の気持ちを伝える。※今年度は中止。</p> <div data-bbox="986 562 1409 875" style="float: right; text-align: center;">  </div> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>地域の方々との米作りを通して、ふるさとの自然や地域の方とふれあうことの楽しさを味わうことができるようにしたいと考えた。そのために、まちセンと地域講師と事前に綿密な打ち合わせを行い、この活動で子どもたちに身につけさせたい力やめざす子ども像について共有することに努めた。</p> <p>米作りや地域の方々との交流にめあてを持って取り組めるようにするために、活動後にお礼の手紙を書き、3つのまちセンに届けることを伝えた上で活動に取り組んだ。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>表現力を高めるために、振り返りの時間として、地域の方々の前で自分の思いや感じたことを伝える時間を設けた。</p> <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等） (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>もち米をつくる活動や調べた情報を整理し共有する活動を通して、稲の生長や季節の変化、自然のすばらしさなど、どの学年もそれぞれに新たな気づきがあった。</p> <p>地域の方と一緒に活動を行う中で、活動する楽しさを実感することができ、改めて人とかかわり合うことのよさや大切さに気づく機会になった。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>地域の方が取り組んでおられる米づくりやそれにまつわる行事について興味をもち、各自課題をもって調べ活動（体験も含む）を行うことができた。</p> <p>4 課題や今後の展望</p> <p>コロナ禍における活動の制限があり、ねらいが達成しにくかった。来年度も見通しが持ちにくい状況はあるが、地域の方との活動が継続できるように工夫していきたい。</p>			

学校名	浜田市立波佐小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
全校	生活科、特別活動、総合的な学習の時間	新米を食べよう ～田植えからしめ飾りまで～	地域、学校田 米作り（炊飯等）
ねらい	自然の恵みを感じると共に、地域の方々に支えられて活動ができているという感謝の気持ちや波佐のよさを認識し、地域を愛し誇りをもてる子どもを育てる。		
<p>1 取組の概要</p> <p>田植えから稲刈り、精米・炊飯活動、しめ飾り、とんど祭りまで一連の流れを体験することで自然の恩恵と地域の特色、地域の方々の温かい心を知ることができた。田植えや稲刈り、新米を食べる会やしめ飾りでは、波佐小学校の伝統を受け継ぎ上学年が下学年にやり方を教えている。また、お世話になった地域の方や保護者へ新米を贈り、喜んでいただくことで、来年度への活動の意欲づけとしている。</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひと → 地域の方々、波佐保育園、波佐まちづくりセンター ♡♡♡ ♡♡♡ 連携 ・もの → 学校田（学校の横にある個人所有の田んぼを借りている） ♡♡♡ ♡♡♡ 愛着 ・こと → 米作り（田植え、稲刈り、新米を食べる会、稲のそぐり、しめ飾り） 交流 <p>（学力育成の視点から）</p> <p>6年生は5年間の実績から、米作りからしめ飾りまでの流れが理解できている。前年度との比較から自身の成長を知り、地域の方に教えていただいたことと自身の経験を含めて、他の学年に活動のコツを伝えることができる。分かりやすく伝えるためには言葉によるものと動きによるものがある。1年生には、自分たちと同じように活動することはできないので、できるようになるまでに時間がかかり、待つ姿勢も大切になってくる。どうしてもできない時には、手助けをしたり、地域の方にお問い合わせ（交渉）をしたりする場合もある。上学年は下学年を支援し、下学年は上学年をまねて、自分の力にする。さらに、地域の方の手ほどきを受けながら、尊敬や感謝の気持ちが醸成できると考える。</p> <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等） （ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）</p> <p>地域の方々への感謝の気持ちを言葉にして伝えることができる。これらの活動を大切に思い、これからも続けていきたいという気持ちをもつことができた。</p> <p>（学力育成の視点から）</p> <p>これらの活動を、毎年全校活動として取り組むことは自身の成長を感じることができ、自尊感情を高めることにもつながっている。</p> <p>4 課題や今後の展望</p> <p>田植えからしめ飾りまで年間を通して、たくさんの方にお世話になっている。そのことを教職員が児童に伝え、時には大変な活動にも関わらせることが大切だと考える。</p>			



学校名	浜田市立旭小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
5	総合的な学習 の時間	米作り体験	今市まちづくりセンター 米作り
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・米作りの体験をしたり、話を聞いたりすることを通して米のつくり方についての理解を深めて、調べてみたい自分の課題を見つける。 ・農作業を通して協力する心や生命を育てる難しさや喜び、勤労の尊さを実感することができる。 ・地域の方と同じ作業をし、交流することでふるさとを愛する気持ちを持つ。 	
<p>1 取組の概要</p> <p>4月：育苗センター見学、代かき 5月：田植え 7月：生育調査 10月：稲刈りを体験したり話を聞いたりする 上記のことを通して、米に関する課題を見つけて調べた。</p> <div style="text-align: right; margin-right: 50px;">  </div> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）</p> <p>学校生活ではなかなか体験することができない、農作業を通して協力する心や生命を育てる難しさや喜び、勤労の尊さを実感することができるようにした。</p> <p>地域の方と同じ作業をし、交流することでふるさとを愛する気持ちを持てるように、まちづくりセンターと連携をして、JAの方や田んぼの地権者の方とふれあうことができるようにした。</p> <p>（学力育成の視点から）</p> <p>米作りの体験をしたり、話を聞いたりすることを通して米のつくり方についての理解を深め、調べてみたい自分の課題を見つけ、調べることができるようにした。</p> <div style="text-align: right; margin-right: 50px;">  </div> <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等） （ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）</p> <p>地域の方と協力して稲刈りや田植えなどの作業をすることで、交流することの楽しさや米作りをしてもらえる方の努力にふれ、改めて地域のよさを発信していこうとする意欲を持った。</p> <p>地域で米作りをしている方から、米作りに関する知識や専門的な話を聞くことを通して、米作りのことについてより深く知ることができた。</p> <p>（学力育成の視点から）</p> <p>米作りの体験を通して1人1人が課題を見つけ、課題解決に向けて主体的に調べることができている。</p> <p>4 課題や今後の展望</p> <p>児童1人1人への目的意識のもたせ方に課題が見られた。 1つ1つの活動のねらいをはっきりさせ、事前指導で目的意識を持たせたい。 児童が調べたことをまとめ、学習成果発表会で発信することになっている。</p>			

学校名	浜田市立弥栄小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1～2年	生活科	春をみつけよう	まちづくりセンタースタッフ、地域の自然、野外散策
ねらい		学校周辺の春の植物や生き物を見つけることを通して、季節の変化に気付くこと。学習活動を通して、地域の良さに気付いたり、身近な地域の方との関わりを深めたりすること。	
1 取組の概要			
<p>①はじめの会（昇降口前） 「学習のめあて等確認」</p> <p>②春を見つけよう（学校周辺） 「野外散策」</p> <p>③春を食べよう（多目的室） 「まちづくりセンタースタッフによる野外草木を使っの簡単な調理および会食」</p> <p>④おわりの会（多目的室） 「感想発表・おわりのあいさつ」</p> <p>⑤ふりかえり用紙記入（教室） 「学級でのふりかえり、ふりかえり用紙の記入」</p>			
			
2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）			
<p>地域の「ひと・もの・こと」を積極的に活用することを通して、郷土の一員としての自覚を高め、郷土を愛する気持ちを育むとともに、自己の生き方を考える基盤を養うための教育活動に取り組んだ。</p>			
<p>（学力育成の視点から）</p>			
<p>学校周辺の春の植物をまちづくりセンタースタッフの方に説明していただいたり、春の植物の天ぷらを料理していただいたりしたことで、子どもたちが地域に対する愛情や誇りを育む貴重な機会となった。天ぷらにして食べることができる植物を知ったり、鳥の声などを聞きながら身近な動物について新しいことに気づいたりして、身近な動植物対する一層の興味関心をもつ有意義な学習となった。</p>			
			
3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等） （ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）			
<p>弥栄のひと・もの・ことに進んで関わり、そのよさに気づく体験をまちづくりセンターの方と共有することで、地域の人に対する親しみや感謝の気持ちをもった。また、地域の自然について、もっと知りたいという意欲をもった。</p>			
<p>（学力育成の視点から）</p>			
<p>この活動を通して、季節の変化や地域の良さに気付くことができた。2年生児童はこのような感想を書いた。「ぼくは、はる見つけで、赤いみを見つけました。つぎにふきを見つけました。ふきは、いっぱいありました。ぼくは、ふきを3本もとりました。」「知らない花がいっぱい分かったので、うれしかったです。たべられるさくらとかをいっぱいてんぷらにしておいしかったです。1年生の時は、コロナでできなかったけれど、2年生の生かつかで、こんなことをするんだとおもいました。」</p>			
4 課題や今後の展望			
<p>弥栄中学校校区の本校では、「信頼し合い、助け合い、思いやりの心をもった『弥栄』を愛する子」および「主体的に関わり、学んだことを自己表現できる子」を理想の子ども像として実践を重ねている。子どもにとって有意義で価値ある本事例のような実践をこれからも継続することを課題と考えている。</p>			

学校名	浜田市立三隅小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3・4	総合的な学習の時間	単元名「川の生き物探し」 三隅の自然を体験しよう(3年) 三隅の環境について考えよう(4年)	井川川（三隅川の支流） アクアス学芸員
ねらい		地域の自然（川）に出かけ、様々な生き物を見つけ、自然の様子を知ることを通して、地域の良さに気づくことができる。	
<p>1 取組の概要</p> <p>4月下旬：まちづくりセンター、アクアス、学校の3者で打合せと現地の確認 5月31日：井川川の生き物探し ～図鑑やインターネットでの調べ学習 6月8日：井川川の生き物探し ～環境について考え、川からつながる海岸清掃活動</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 （ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から） 当初は三隅川での活動を考えていたが、アクアス学芸員さんのアドバイスで、水量や水流など安全面の配慮と、できるだけ自然のままの川での活動を重視して井川川を選んだ。三隅の名所「井川の一本」の目の前で川遊びを満喫することができた。 （学力育成の視点から） アクアスの方から、生き物の捕まえ方を教えてもらったり、捕獲した生き物について詳しく解説してもらったりする時間を設けた。地域や保護者の方も初めて知ることがあったようで、一緒に興味深く聞いておられた。</p> <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか） （ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から） 地域の方が草刈りや更衣室の準備、当日の見守りなど積極的に協力していただき、児童が親しみを感じたり、感謝の気持ちをもったりした。「春に桜が咲いたらまた行ってみたい」という声がたくさん聞かれた。 （学力育成の視点から） 図鑑で知っている生き物を生で見たり、川の水の冷たさや美しさを体験したりする中で、24種類の生き物を捕ることができ、あちこちから歓声が上がった。アクアスの方からイシドジョウやウナギなど珍しい生き物もいることを教えてもらい、その後の調べ学習への意欲が高まった。</p> <p>4 課題や今後の展望</p> <p>今年度、新しい取組として3・4年生で「川の生き物探し」を行った。来年度以降も「海洋教育」として継続していきたい。また、一度きりの活動にならないよう、稲刈りや桜の花見など、井川地区の方との交流活動を考えていきたい。</p> <p>当日はB&G海洋センターから児童用・大人用のライフジャケットを50着借りた。安全第一で活動を行うためにも地域・保護者ボランティアの協力をお願いしたい。また、保護者も子どもと一緒に地域を知ってもらいよいきっかけになるので、積極的に参加を呼びかけていきたい。</p>			



学校名	浜田市立岡見小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	総合的な学習の時間	おかみについて知ろう～おかみかるたについて調べよう～	岡見まちづくりセンター、岡見まちづくり実行委員会、王山クラブ
ねらい		おかみかるたについて、作成の経緯や思いを知り、地いきの人が、大切にしていることを考え、ふるさとを大切にすることを育む。	
<p>1 取組の概要</p> <p>「岡見のよさをしょうかいしよう」という学習の中で児童から出た「おかみかるた」について調べていった。実行委員長さんの話を聞き、完成までの経緯を聞いたり、苦労したことなどを質問したりしながら作った方の思いを聞いた。さらに実際の制作にかかわった方に来ていただき、「おかみかるた」に選ばれた岡見の名所や自慢について詳しく話を聞き、まとめた。新聞形式にまとめ、「おかみかるた」新聞を作成した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;"> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>調べる上で、人とのつながりを大切にしながら進めていった。ゲストティーチャーとして来ていただいた方々は、今年度取り組んだ大豆づくりのときにもお世話になった方が多く、児童もよく知っている方々だった。なるべくたくさんコミュニケーションがとれるように地域の方に出会う機会を作り、活動を進めていった。また実際に「おかみかるた」を地域の方とすることで楽しみながら地域の方と活動をすることができ、話を聞くと、質問するときなどにも楽しく進められるようにした。人とのつながりが今後の成長過程においてもふるさとを愛する心情の育成にも重要であると考え取り組んだ。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>地域の方とのコミュニケーションを円滑にするために、自分の思いを分かりやすく伝えたり、大事なことを落とさずに聞いたりする力を育成できるよう、とくに国語科との関連を意識して取り組んだ。インタビューの仕方、メモの取り方などの学習では、地域の方との場面を想起させながら取り組み、実践の場で意識できるようにした。</p> </div> <div style="width: 35%;">   </div> </div> <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等） (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>地域の方と接する回数が増えるほどに、受け身だったコミュニケーションが徐々に能動的に変わっていった。人とのつながりを意識でき、積極的に質問したり、会話を広げたりする姿が見られるようになった。また自分たちの町にも知らないことがたくさんあり、もっと調べてみたいという思いをもつ児童もいた。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>話すことが苦手な児童も多かったが、質問したことに丁寧に答えてもらう経験を積むことで、意欲も高まった。またメモをしっかりととりながらあとで見返しまとめようとする姿見られるようになった。学んだことを実践に生かす、実践から学ぶという姿が見られた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;"> <p>4 課題や今後の展望</p> <p>今年度は、コロナ禍での活動で制限が多く、とくにまとめの学習段階では発信するという形が難しかった。新聞形式にまとめるという形をとったが、ICT機器を使ってのHPの活用なども今後取り組んでいけると発信の形も広がっていくように感じた。</p> </div> <div style="width: 35%;">   </div> </div>			

学校名	浜田市立第一中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1	総合的な学習	放課後遊び隊	浜田一中校区 地域コーディネーター
ねらい		小学生との交流を通して、地域のジュニアリーダー育成を図る。	
<p>1 取組の概要</p> <p>各クラスの中でいくつかのグループに分かれて、地域のジュニアリーダーとしての課題を設定し、小学校低学年を対象に様々な遊びを準備し、校区内の小学校へ訪問して各活動を行った。また、グループごとの振り返りと各学級での意見交換を行った。</p> <div data-bbox="968 551 1422 855" style="float: right; width: 30%;">  </div> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>各グループが計画した遊びの内容に対して、校区の地域コーディネーターから小学校低学年に対する理解や配慮についてアドバイスをいただき、説明の仕方など細かい部分まで修正し、活動当日にむけて準備することができた。</p> <div data-bbox="968 999 1422 1281" style="float: right; width: 30%;">  </div> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>小学校低学年に対して、それぞれの遊びのルールを説明するにあたって、各グループで説明に必要な原稿やイラストを作成し、説明の練習を行った。</p> <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>小学生との遊びを通して交流することで、異年齢での交流でしか身につけることのできない、相手に対する理解や配慮を学ぶことができた。</p> <div data-bbox="968 1494 1422 1776" style="float: right; width: 30%;">  </div> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>小学校低学年の児童が理解しやすい説明原稿やイラストを作成することに、情報を整理し説明を工夫する力を向上させることができた。</p> <p>4 課題や今後の展望</p> <p>本校は学年4クラス編成で推移しており、1クラスずつ日程を変えて交流事業を行っているため、日程の調整が年々難しい状況になっている。</p>			

学校名	浜田市立第二中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1	総合	「みんなが住みたい街 浜田」を考えよう！	市役所の職員
ねらい		浜田の魅力について自分たちで視点を持って調べ学習を進め、街づくりについての講話を聴く活動を行うなかで、浜田の魅力と街づくりに携わる方の思いに気づき、地域のために自分たちにできることについて提案できるようになる。	
<p>1 取組の概要</p> <p>(1) 浜田市の魅力と課題を考え、グループで考えを交流する。</p> <p>(2) 魅力と課題として挙げた意見を分類し、その中から興味・関心のある内容を取り上げ、グループごとに調べる計画を立てる。</p> <p>(3) 自分が知りたいテーマについて、図書館やインターネットなどを利用して調べる。</p> <p>(4) 市役所の職員の方やそのテーマに携わっておられる方のお話を聞き、浜田の魅力を高め課題を克服するために、現在浜田市が行っている取り組みを知る。また、テーマに関することやお話を聞いて、インタビューを行う。</p> <p>(5) お話を聞いたり調べたりしたことをもとに、浜田の魅力を向上させるために今の自分たちにできることは何か考える。</p> <p>(6) 調べたりしたことや考えたりしたことをグループごとに模造紙にまとめ、プレゼンテーションを行う。</p> <p>(7) 単元全体を振り返って、振り返りシートを記入する。</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>事前に「自然環境」「歴史文化」「観光」「食べ物」「人」「街」「産業」の視点で現状と課題について意見を交流しながらゲストティーチャーへの質問項目を作成し、講話をもとに浜田の魅力と課題について考えられるようにする。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>浜田の魅力について調べたり考えたりしたことをレポートにまとめ、相手に伝わるように表現することを目指す。※予定</p> <p>3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身についたか等)</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>自分たちが知りたいテーマについて意欲的に調べ学習を行っていた。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>調べたり考えたりしたことについて、情報を取捨選択しながらレポート形式でまとめることができる。※予定</p> <p>4 課題や今後の展望</p> <p>調べたり考えたりしたことについて、校内外を通じ、生徒目線で発信していけるような活動を組み込むことで、より意欲的にふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲を高められると考える。</p>			



学校名	浜田市立第三中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3年	家庭科	アジギョウザを作ろう	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりセンター(周布、長浜、大麻) ・食生活改善推進員(長浜) ・地域ボランティアの方々
ねらい		<ul style="list-style-type: none"> ・地域素材のアジの風味を生かした餃子を作り、地域素材の魅力を再発見する。 ・地域の方との交流を深め、コミュニケーション能力を養う。 	
<p>1 取組の概要</p> <p>アジを三枚におろして、餃子を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりセンターから地域の方に呼びかけていただき、講師を派遣していただく。 ・グループの中に地域講師の方に入っていたいただき、少人数の指導を実施する。 <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜田の特産アジの魅力を知り、水産浜田の幸を味わう。 ・地域の方との交流の中で、地域に愛着を持つ。 <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域にある食材の知識 ・地域の方の話を聞いたり、質問したりするコミュニケーション能力 ・主体的に「食」について学ぼうとする力 			
<p>3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等)</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>魚が苦手な生徒も、アジを上手にさばいたり、講師の方に質問したりするなど、意欲的な取り組みが多く見られた。また、地域の方への敬意を感じる発言もあり、故郷に住む人々との良いコミュニケーションが随所に見られ、効果的な取組であった。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>全員にアジが配られ、全員がアジを三枚におろすことができた。魚が苦手な生徒もおいしく食べることができ、地域食材への関心と、魚をさばく技術を習得することができた。</p> <p>地域の方に質問し、多くの生徒が会話をしながら餃子作りを楽しむことができた。生徒が書いた礼状にも感謝の気持ちがこもっており、良い取り組みになったと思う。初めての方にもすぐに打ち解ける生徒たちの良さが活かされた授業であった。</p>			
<p>4 課題や今後の展望</p> <p>コロナ禍で、実習がやりにくくなることが予想される。感染症に配慮した実践が求められるようになる。</p>			



学校名	浜田市立第四中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
全	総合的な学習	しめ縄づくり交流会	美川まちづくりセンター主事 地域学校協働活動推進委員 学校借用田の稲わら
ねらい		ふるさとの産業や伝統文化を知り、関心を持たせるだけでなく、主体的、協働的に取り組む生徒を育成する。	
<p>1 取組の概要</p> <p>学校借用田を活用した稲作活動（5月田植え、継続的な観察と記録、9月稲刈り、11月文化祭での米販売）を実施したまとめとして、幼稚園生、小学生と合同でしめ縄づくり（12月）を行う。（総合的な学習の時間）</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 （ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）</p> <p>地域の主要な産業である農業について関心をもつとともに、地域のボランティア指導者、地域の幼稚園、小学校との交流をすることで、「ひと」を通じた地域への愛着を育む。 （学力育成の視点から）</p> <p>幼児から高齢者まで、幅広い年齢層との交流を通じて、相手の状況に応じ、時と場を考えたコミュニケーション能力を身に付け、伝え合う力を高める。</p> <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等） （ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）</p> <p>地域の産業や伝統文化について関心をもつとともに、地域の多くの方が参加する活動を中学生が中心となって実施することで、自己有用感を高め、地域への愛着を育成することができた。 （学力育成の視点から）</p> <p>自分が集団のリーダーとなって進行しなくてはならないという主体的な意欲をもって活動に取り組み、伝え合う力を高めることができた。</p> <p>4 課題や今後の展望</p> <p>地域の指導ボランティアの高齢化による減少に加え、生徒数の減少も重なって活動の維持が難しくなっている。中学生が地域への貢献を感じ、地域の伝統ともなっている行事でもあるので、あり方を工夫して継続できるようにしたい。</p>			



学校名	浜田市立浜田東中学校 ①		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1	総合的な 学習の時間	石見銀山訪問	石見銀山
ねらい		世界遺産「石見銀山」について大森の町並みを見学することにより、ふるさと島根県への理解を深め、「郷土学習」の発展の場とする。	
1 取組の概要			
<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習として ガイダンスを行い、学習の見通しを立たせ、各係の分担を行う。 ・各班で見学先の龍源寺間歩、大森町の町並みについて、パンフレットやインターネットで情報の収集をするなど事前学習を行う。 ・当日の見学では学習係が説明をしながら、見学を行う。 ・見学後は各班で新聞を作成し、発表会をおこない理解を深める。 			
			
			
2 授業（活動）づくりのポイント（工夫）			
<ul style="list-style-type: none"> ・各見学先が単なる紹介ではなく、銀山人々の生活とどのような役割があったのかを含めながら事前学習を行った。特にパンフレットや配布されたタブレットを使用し、深みのある事前学習を行った。 ・当日の見学先のスタッフに前もって、説明のお願いをした。又、街並みや銀山に詳しい教員がポイントに立ち、必要に応じて案内や説明を行った。 ・事後学習で班新聞を作成し、発表会（プレゼンテーション）では一人一発表を行った。 			
			
3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）			
<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産「石見銀山」の歴史と人々とのかかわりや、生活様式の理解が深まった。 ・班で係を決めて活動することで、自分の仕事に責任をもって活動した。 ・班新聞の作成・発表で協力性・発信力（プレゼンテーション）を高めた。 ・石見銀山だけでなく、浜田市や他の地域についてさらに調べ、理解を深めたいと考える生徒が多数いた。 			
			
4 課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・見学先での時間は限られているので、検証を確かなものにするために、事前学習をどの程度行うか。 ・現地でスムーズなグループワークを行うためにも、見学先の係のかたの説明時間・内容などの目安をあらかじめ打ち合わせをしておく必要もあった。（張り切って説明されたためかなりの時間延長が見受けられた。） 			
			

学校名	浜田市立浜田東中学校 ②		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2	総合的な 学習の時間	障がい者福祉 車いすバスケットボール体験交流	三光スーパーズ バスケットボールチーム
ねらい		車いすバスケットボールチームと交流・体験をすることでバリアフリーの社会について理解する態度を育成する。	
1 取組の概要			
益田市三光スーパーズの方を講師として、一般用車いすと競技用車いすの違いを教わった。車いすバスケットボールの魅力の話をしていただき、実際に車いすの操作や試合を行うなどの体験交流をした。			
2 授業（活動）づくりのポイント（工夫）			
事前に高齢者福祉や障がい者福祉について学習し、一般の車いす体験活動を行った。			
3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）			
福祉講話や福祉体験活動を通して、介助する側・される側の気持ちを考え、思いやりの心をもつことができた。また、車いすバスケットボールの体験交流を通して地域で障がい者の雇用を積極的に行っている事業所があることを知るとともにパラスポーツの精神を学ぶことができた。			
4 課題			
特記事項なし			
<div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;">       </div>			

学校名	浜田市立浜田東中学校 ③		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	総合的な学習	職業と将来の生き方	3年保護者、本校卒業生 地元事業所 41社
ねらい		地元の事業所での職場体験をとおして、ふるさとについての理解を深め、ふるさとで働くことの意義を知り、郷土愛と豊かな心を育てる。	
1 取組の概要			
<p>20代の本校卒業生のインタビューの様子をDVDで見たあと、保護者3名の方に参加いただき、パネルディスカッション形式で「働くこと」についての考えを深めた。職場体験に行く企業と事前の打ち合わせをした後、2日間、地元企業に職場体験に行った。次の日に職場体験の内容と感想をレポートにまとめ、実物投影機を使って学年で発表会を行った。</p>			
			
2 授業（活動）づくりのポイント（工夫）			
<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとで働くことの実態を知るために、地元で働く人の話を聞いたり、質問したりする機会を設けた。 ・コロナ禍であったので、卒業生へのインタビューはDVDに収め、生徒と参観保護者で視聴した。 ・職場体験レポートを使って、学年全体で発表会をもち、各々の体験を共有した。 			
3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）			
<p>1年次には、職業調べをし、自分が関心のある職業を認識し、調べ方を学ぶことで深く知る意欲をもつことができた。また、身近な人へのインタビューを通し、職業や働くことについての考えを理解した。2年次には、進路学習を進める中で、今の学びが将来につながることや自己実現につながることを次第に理解するようになっていった。そして、3年次では、職場体験に関する取組を通じて、働くことの生きがいや厳しさを知り、働くうえでコミュニケーション力や自己理解力が必要だということに気づくことができた。また、地元で働く人々がどのような考えや思いをもって職業を選択し、実際に働いているのかということを知ったことは、職業選択に向けて自己理解を深め、自らの進路選択のために努力しようという意欲を生み出したと考えられる。</p>			
			
4 課題			
<p>今年度は、実施が懸念されるなか、地元の企業の協力によって2日間の職場体験を実施できた。しかし今後も、コロナ感染拡大の影響で、様々な活動が制限されることが考えられる。このような状況であるからこそ、さらに、つけたい力を明確化して、その力をつけるため授業（活動）をつくっていかねばならない。また、生徒達の主体性を育むためには、生徒たちが体験し、学んだことを表現する場を効果的に設ける工夫が必要であると考える。</p>			
			

学校名	浜田市立金城中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
3	総合的な学習 音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統文化の継承 ・ 和楽器の演奏 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雲城まちづくりセンター ・ 甚左衛門太鼓保存会 ・ 甚左衛門ウォーク・
ねらい		郷土の伝統音楽の継承、その表現活動を通して、生徒が郷土の伝統音楽のよさを味わい、郷土への愛着をもたせる。	
<p>1 取組の概要</p> <p>中学生が地域を元気にする実践のひとつとして、郷土芸能「甚左衛門太鼓」保存会の活動に協力して、太鼓を習得し、継承していこうとする取り組み。</p> <p>総合的な学習の時間と音楽の時間を使って、太鼓の練習をして、学習発表会と地域行事（岡本甚左衛門開拓200周年記念事業）で演奏を披露した。この活動は10年以上続いている。</p> <div data-bbox="986 568 1425 862" style="text-align: right;"> </div> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふるさとの伝統音楽のよさにふれることで生徒のふるさとへの愛着と誇りをもたせる。 ・ 保存会の方々との交流を通して、生徒の地域貢献意欲を高める。 <p>（学力育成の視点から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 異世代交流と音楽表現を通して、コミュニケーション力を高める。 ・ 保存会のメンバーの指導により、太鼓の演奏技術を高める。 <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）</p> <p>（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校での練習時間以外にも、自主的に地域の方々との練習会に参加する生徒が15名ほどあり、生徒の地域貢献への意欲が高まった。 ・ 地域の方々の中学生に寄せる期待と感謝の意をくみ取り、地域活性化の担い手としての自覚をもった。 <p>（学力育成の視点から）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 和楽器の演奏技術と音楽表現力が高まった。 ・ 他者と協働して創造する力が高まった。 ・ 積極的に地域活動に協力するようになった。 <p>4 課題や今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域側と事業前の計画・事業後の振り返りをする。 ・ 目標達成のために効果的な学習計画の工夫、改善策作成をしてPDCAサイクルで連携事業の質を高めていくこと。 			

学校名	浜田市立旭中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1	総合的な学習の時間	旭を紹介するパンフレットを作って、紹介しよう！	各地域まちづくりセンター 地元企業の方々 旭分室
ねらい		ふるさとを再発見し、その魅力をパンフレットにまとめて紹介することで、ふるさとの魅力や課題に気づき、ふるさとをよくする方法を考える。	
<p>1 取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内各まちづくりセンターの方々に旭の魅力や課題、地域の発展のために活動しておられる方々を紹介してもらうために中学校に来ていただいた。 ・生徒たちは、各まちづくりセンターの方々から話を聞いたり、質問したりして、旭についての理解を深め、その内容をグループで模造紙にまとめ、校内に掲示した。 ・各グループでまとめた内容の中から、もっと知りたいと感じたことを自分の探究活動のテーマとして、さらにグループに分かれた。 ・各テーマで別れたグループで、地域の発展のために活動しておられる人から話を聞いたり、自分たちがもっと紹介したいもの、ことに実際に触れてみるために、地域に出かけたりした。 ・自分たちで調べて、まとめたことを情報発信するために、旭の魅力を紹介するパンフレットを作成した。 ・パンフレットの内容(抜粋)は、旭の魅力を感ずることができるコースを自分たちで考えた。例)温泉、おみやげ、食事、名所などに回るようなコースを作成した。 ・作成したパンフレットを旭支所で旭支所の方々に紹介し、新聞にも取りあげられた。 <div data-bbox="882 902 1410 1294" style="text-align: right;"> </div> <p>2 授業(活動)づくりのポイント(工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりセンターの方々、地元で地域の発展のために活動しておられる方々から旭の魅力についてお話をしていただいたこと。⇒地域のネットワークの活用 ・小学校の総合的な学習の時間の内容を確認したうえで、地域のよさの再発見につながるように授業計画を考えたこと。 ・生徒たちと地域の方々との対話や体験活動を授業の中に盛り込んだこと。 ・生徒たちのアイデアを活動の中に取り入れたこと。 <p>3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身についたか等)</p> <p>パンフレットを見てくださった方々に「地域の発展にこのパンフレットがきっかけとなるほど素晴らしい出来栄です」と評価してもらえたことが活動に対する達成感につながった。また、地域にあるもののよさや魅力だけではなく、関わる方々の努力や思いにも気づききっかけとなった生徒が多くいた。</p> <p>4 課題</p> <p>生徒たちがアイデアを出して作成したパンフレットを今後どのように活用していくかが課題である。</p>			

学校名	浜田市立弥栄中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2年	総合	弥栄の魅力発信	弥栄の自然、特産品、や市 杵束まちづくりセンター 安城まちづくりセンター、弥栄支所
ねらい		<p>地域の「ひと・もの・こと」を積極的に活用することを通して、郷土の一員としての自覚を高め、郷土を愛する気持ちを育むとともに、自己の生き方を考える基盤を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流を通して、故郷に愛着を持ち、すすんで地域社会に貢献しようとする態度を育てる。 ・地域社会の実態を知り、自分の考えをもち、発信する力を育てる。 	
<p>1 取組の概要</p>			
<p>1年時は、「弥栄の未来を考える～持続可能なまちづくりに向けて～」できること、「弥栄の魅力発見」「情報発信」をゴールとした取組から、2つの「まちづくりセンター」の幅広いネットワークを活用し、多くの「ひと・もの・こと」と出会い、個別の興味関心に応じた探究活動に取り組み、具体的に自分としての意見を持ちまとめ、成果として発信することができた。</p>			
<p>この経験を受け継ぎ、2年時では「修学旅行で弥栄の魅力を発信しよう」というテーマで取り組んだ。今年度も、2つのまちづくりセンターにお世話になり、さらに地域の魅力を深掘りすることができた。地域の方にも授業に参加していただき、有効な発信プランの改善策を見つけるために意見交換をすることができた。</p>			
<p>地域の「や市」に出店しリハーサルを予定していたが、新型コロナの影響で取り止めとなり場所を自校体育館に変更して取り組み、感染対策を考慮して、全校生徒、2年生保護者、教職員をお客さん役として協力して貰い、出店・リハーサルをおこなった。</p>			
<p>旅行先では松江テルサで、「石見神楽の紹介」と「特産品（キビソタオル、米、農産加工品）の販売活動」に取り組んだ。緊張しながらも、弥栄の魅力をしっかりと発信することができた。</p>			
			
			<p>キビソタオルについてインタビューをしています。</p>
<p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。（故郷への愛着や誇り、貢献意欲の視点から）</p>			
<p>他地域で弥栄の魅力を発信するのは容易ではない。弥栄と他地域の文化や特徴を比較していく中で、どんな魅力をどのような形で発信すればよいか試行錯誤することとなった。そこで、地域の「ひと・もの・こと」と深く関わり、人々の温かい思いを理解していく中で、故郷の魅力を再認識し、故郷への愛着や誇りもつことができた。</p>			
			
		<p>地域の方々と一緒に弥栄の特産品や農産加工品について考えています。</p>	

(学力育成の視点から)

固定化した少人数の中では、互いに影響し合うことも少なく、「誰とでもコミュニケーションがとれる」「協力して課題を解決し、より良いものを目指すことができる」「見通しを持ちながら準備を進めることができる」など、「思考・判断・表現する力」や互いに高め合うことに必要な「きいて伝える力」が育ちにくいと考えた。そこで、1年時の学習を土台に、他地域への「弥栄の魅力発信」のレベルアップした活動を通して、地域の方々と深く意見交換を繰り返し進めていく中で、これらの力を身につけさせたいと考えた。



3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等)

(故郷への愛着や誇り、貢献意欲の視点から)

地域やまちづくりセンターの方々が授業にも参加していただき、話を聞くなど積極的な意見交換をする中で、生徒は故郷の魅力を再発見するとともに、人々がつながりを持ち続けることの大切さに気付くことができた。また、地域の特産品や伝統文化を活用し他地域へ発信するまでの過程は、生徒たちの故郷に対する思いを強固なものにすることができた。



体育館で販売活動のリハーサル。お客は、全校生徒、2年保護者、教職員で

(学力育成の視点から)

石見神楽や販売活動について調べたことをもとに、展示や説明の仕方をいろいろ考え、地域の方々と意見交換をしたことは、とても効果的であった。以前に比べ、誰とでもコミュニケーションができるようになった。協力して課題を解決したり、より良いものを目指したりできるようになってきた。修学旅行先での「弥栄の魅力発信」は準備がとても大変だったが、活動後に頂いたお客様からのメッセージは、生徒たちには自己肯定感が高まるものだった。

4 課題や今後の展望

生徒5人で3つの取組は多かった。2人で相談しながらの取組はできるが、1人は生徒間の関わりが生まれにくく、見通しを持ちながらの準備がなかなか難しかった。「きいて伝える力」「インタビュー力」など、個別になると自信が持てない様子だった。対大人だけでなく、生徒同士の影響の及ぼし方も考慮しておく必要があった。

次年度は、さらに地域に開かれた教育課程の実現に向けて、実践・振り返り・工夫を重ね、生徒に望む3つの力の「チャレンジ精神、思考力、きいて伝える力」を高めていきたい。

学校名	浜田市立三隅中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
2	総合的な学習の時間	防災学習（地域学校協働活動）	防災士・まちづくりセンター
ねらい		災害を知り、防災を考え、行動できる中学生になろう ・自分が生活する地域の方とともに防災について考え、地域のマイタイムラインを作成する。	
<p>1 取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとの災害（水害：昭和58年）や防災について、防災士のお話を聞く。 ・まちづくりセンターに出かけ、地域の方とともにマイタイムライン（避難行動計画）を作成する。 ・スモーク体験や避難所体験、段ボールベッドの組み立て体験等を通して、マイ防災バッグを作成する。 ・地域連動の避難訓練時に、消防署と連携して起震車体験を行う。 ・防災について学習したことを振り返り、新聞にまとめる。 <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力をつけるために、どのような意図をもって活用したか。 （ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から） ふるさとの災害を自分の身近なこととして捉え、もしも被災したらどのような行動をとればよいか、地域の一員として防災について考える力を身に付ける。そのために防災士の方から被災時の役割や行動等を聞いたり、避難所体験等から事前準備の必要性や自分にできることを考えたりする活動を取り入れた。 （学力育成の視点から） 状況に応じて必要な情報を集め、活用する力をつけるために、ハザードマップや警戒レベルなどの資料を活用してマイタイムラインを作成した。自分1人で考えるのではなく、他者と協働しながら完成させることを意図して、地域の方々に見守っていただきながら、班活動で取り組ませた。</p> <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等） （ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から） 防災士の方からお話を聞き、ふるさとの災害時の被害状況を知ったり、災害時と現在のふるさとの姿を比較したりするなど、災害を身近なこととしてとらえる力がついた。また、はじめは防災学習に対する意欲の高まりがあまり見られなかったが、マイタイムラインの作成やさまざまな防災体験を通して、「良い体験になった」「家族とマイタイムラインの話をしたい」と話す生徒の姿が見られるようになった。 （学力育成の視点から） グループに分かれて、各地区のまちづくりセンターに出かけた際は、防災ハザードマップや警戒レベルを活用することで、見方や活用の仕方を知ることができた。自分の家から避難所までの距離はどのくらいか、洪水リスクがあるか、防災バッグに何を準備するか等、災害時の危険を予測する力がついた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>4 課題や今後の展望 防災学習をとおして、ふるさと（居住地区・家庭）への貢献意欲の高まりは見られたが、ふるさとへの愛着や誇りに関する意識の高まりはあまり感じられなかった。小学校時と比べて地域の方々と触れ合う機会が減り、自身を「地域の一員」として捉えにくくなっていることも課題として挙げられる。フィールドワークも多く、生徒の関心をひくことはできたので、防災に関する地域の人の思いや考えに触れる時間を多くつくり、ふるさとに対して自分の考えを深められるような活動に展開していきたい。</p>			